

第1学年「図工」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析） ← 当面の間、昨年度の1年生の実態より転載

- 成果** ○ 表したいと思うものを素直に一生懸命表現することができる。
○ 好きなもの、楽しいことを考え、言葉にして人に伝えることができる。
- 課題** ▼ 道具の使い方に慣れていく必要がある。
▼ 制作活動をする中で、自分の見方や感じ方を広げていく必要がある。
▼ いろいろな形や色を考えながら、どの様に表すか考えていく力が必要である。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 造形的な面白さ、楽しさを感じながら取り組む力。
- ◇ 用具の使い方を理解し、活動や表し方を工夫する力。
- ◇ 形や色などに関わり、楽しい生活を創造しようとする力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 「自分にもできる」と思えるように、導入では簡易的なモチーフを提示して説明する。
- 児童が新しく発見したこと、できるようになったことにしっかりと共感する。

言語活動の工夫

- 作った作品を自分の言葉で説明させる。
- グループになって他者の作品の魅力を言葉で伝える。

ICT活用の工夫

- パワーポイントを使って作業過程を分かりやすく表示する。
- 実演機を使って制作のポイントを使える。

課題解決力育成の工夫

- できなかった原因を一緒に考え、できるようになるヒントを与える。
- 児童同士で教え合うように促す。

達成目標

- ☐ 手や体全体の感覚などを働かせ、材料や用具を使えるようになる。
- ☐ 造形的な面白さや楽しさを感じながら、表したいものを表せるようになる。
- ☐ 楽しく表現したり鑑賞したりすることができる。